

令和3年 鳥取市教育委員会 7月定例会 会議録

1 日 時 令和3年7月27日(火) 13時30分 から

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 6階 第4会議室

3 出席者

教育長 : 尾室 高志
教育長職務代理者: 藤井 喜臣
委員 : 前田 哲雄
委員 : 山脇 彰子
委員 : 畑 千鶴乃

[事務局]

次長兼学校教育課長: 安本 雅紀
次長兼教育総務課長: 横尾 賢二
生涯学習・スポーツ課長: 中原 登
文化財課長: 佐々木 敏彦 学校保健給食課長: 山根 ちはる
中央図書館長: 長本 次郎 教育センター所長: 安田 直人
さじアストロパーク所長: 宮本 敦
学校教育課参事: 須崎 ひとみ 教育総務課長補佐: 入江 卓司

[傍聴者] 1名

4 会議次第

○行事報告及び行事予定について [教育総務課]

【説明・協議事項】

(1) 令和4年度使用中学校教科書の採択について [学校教育課]

【報告事項】

(1) 令和3年第4回市議会臨時会の報告について [各課]

・令和3年度鳥取市一般会計補正予算(7月補正)

(2) 令和3年7月大雨による被害状況について [各課]

(3) 新型コロナウイルス感染症の対応について [学校教育課]

(4) さじアストロパークで発見した小惑星の命名について

[生涯学習・スポーツ課]

- (5) 鳥取砂丘西側エリアでの滞在型観光施設の整備に関するサウンディング型市場調査結果の公表について [生涯学習・スポーツ課]

【質疑・意見交換】

- (1) 鳥取市小・中・義務教育学校における防災教育の状況について [学校教育課]

【先回定例会の議事録】

【その他】

- (1) 次期定例教育委員会の開催について

[8月] 令和3年8月30日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

[9月] 令和3年9月28日(火) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

5 会議概要

13時30分 開会

尾室教育長 あいさつ

○行事報告及び行事予定について

教育総務課長 (資料に基づき説明する。)

【説明・協議事項】

- (1) 令和4年度使用中学校教科書の採択について

学校教育課長 (資料に基づき説明する。)

【質疑】

(前田委員)

表の見方についてお尋ねします。県の教育委員会の方からの選定に必要な資料の答申・返送が6月末ですので、これが送られてくるのが6月末だと思うのですが、8月の採択地区協議会に矢印がおりています。採択協議会の方に送られてくるのか、社会科担当の先生方の調査委員会の方に送られてくるのかどちらでしょうか。

(学校教育課長)

これは東部地区採択協議会の方で独自に調査資料を作成する必要があります。その参考となる資料を県が作成するということとして、県が作成した調査資料はすでに届いております。それをもとに、現在東部地区の方の調査資料を作成する準備を行っているという状況です。

(前田委員)

調査委員会のメンバーの方も、その答申を見られるということですね。

(学校教育課長)

はい。まだ見てはおりませんが、それを参考に東部地区の資料を作成します。

(前田委員)

わかりました。もう1点、資料に記載の教科書展示会は日付が入っていませんが、行われる予定ですか。

(学校教育課長)

こちらは今のところ未定となっています。自由社の教科書がどこまで配られているかということが不確実な状況にあります。本来であれば昨年度の教科書採択の時のように、すべての教科書会社が必要部数を各教育委員会に配布しているところですが、この度は冊数があまり届いておりません。教科書を公開するというような情報もまだ届いていない状況です。現在、県に届いている教科書を貸していただけるようお願いしているところで、調査委員には一昨日見ていただき、協議していただく採択協議会、各市町の教育委員会の際には教科書を見ていただきながら議論していただく準備を進めているところです。

(藤井委員)

この資料の矢印の部分だけ修正した方がよいと思います。6月末の「選定に必要な資料の答申」から8月4日の「採択地区協議会」と8月30日の「採択結果報告」の間に線がおりているので、7月の方におろす形にした方が、誤解がなくて良いと思います。

(学校教育課長)

わかりました。

【報告事項】

(1) 令和3年第4回市議会臨時会の報告について

令和3年度鳥取市一般会計補正予算（7月補正）

学校教育課長（資料に基づき説明する。）

学校保健給食課長（資料に基づき説明する。）

生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

(2) 令和3年・7月大雨による被害状況について

教育総務課長（資料に基づき説明する。）

文化財課長（資料に基づき説明する。）

生涯学習・スポーツ課（資料に基づき説明する。）

(3) 新型コロナウイルス感染症の対応について

学校教育課長（資料に基づき説明する。）

(4) さじアストロパークで発見した小惑星の命名について

佐治アストロパーク所長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(尾室教育長)

来年の2月から見ることはできるのですか。

(佐治アストロパーク所長)

はい。観察好機としては2月以降になります。しかしながら、アストロパークの大きな望遠鏡を使用しても、肉眼で見るとはできません。そのため、特別なカメラを使用しての観察会や、映像に編集してYouTube公開という形で皆さんに見ていただきたいと思います。

(藤井委員)

アストロパークでは、カメラ等で自動的にずっと星の観察をしておられるのですか。どのような経緯で星を発見するのかということが気になります。

(佐治アストロパーク所長)

研究用の天文台等はおっしゃるとおり、自動的に監視をしております。その主な目的は、地球にぶつかりそうな天体を見つけるということです。アストロパークでは小惑星を見つけるというよりも、教育用の資料を作成していく中で、小惑星が偶然写るといことがあります。今回のものも偶然発見したものです。しかし、それを発見してすぐに追跡をしなければ、自分たちが発見したということになりませんので、丁寧に追跡するという作業が重要です。

(藤井委員)

よほど知識がないと、それが小惑星かどうかはわからないのですよね。

(佐治アストロパーク所長)

小惑星かどうかということはすぐにわかるのですが、それが未発見のものかどうかという確認と、未発見の場合の追跡の作業はある程度熟練した技術が必要です。

(藤井委員)

22個発見されたというのはすごいなと思いました。佐治が日本一発見数が多いのですか。

(佐治アストロパーク所長)

私が調べた限りでは、1番多いのは愛媛県の天文施設で、仙台市と佐治が2番目で同数となっています。

(5) 鳥取砂丘西側エリアでの滞在型観光施設の整備に関するサウンディング型市場調査結果の公表について

生涯学習・スポーツ課長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(藤井委員)

最後のところに「今後の公募方針の検討に活用」とありますが、今後の公募方針は鳥取市が作成するのですか。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、そうです。

(藤井委員)

では、大まかに言いますと、それを作成して公募型プロポーサルをするということですね。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい。

(藤井委員)

私の希望として申し上げますと、サイクリングターミナルについて、改修というように書かれている箇所もあるのですが、ぜひ建て替えを検討してほしいと思います。50年ほど経っていますよね。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、昭和53年ですので、約50年近く経っています。

(藤井委員)

また、料金について、現在の安い料金を維持したいという思いがありますよね。

(生涯学習・スポーツ課長)

そうですね。安い方が利用される方にとって良いと思います。

(藤井委員)

料金は安くても、良い環境が提供できたらと思います。冷房はありますよね。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、ございます。

(藤井委員)

冷房は必要だと思いますし、きっとバリアフリーでなければいけないと思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

現在はバリアフリーにはなっていません。

(藤井委員)

はい。建て替えなければバリアフリーにはならないと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。ホテル等でも、障がいのある方が利用できるようなバリアフリーの部屋が用意されていたりします。そのような部屋も用意しておかなければならないかなと思いますし、洋式トイレも必要だと思います。また、今のご時世ですと、少人数の部屋が良いと思います。

サイクリングターミナルは国立公園の中にあり、高さの制限があると思いますので、3階建てが立てられるかどうかですが、エレベーターも必要になると思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい。どこまで整備するかということが問題になってくると思います。

(藤井委員)

そうですね。最後に、「補助金などの行政支援が必要」と書いてありますが、おそらく安くするためには必要だと思いますので、何かいい手があれば、国や県からの支援してもらえればと思います。市が出すものもあると思いますが、市は建設主体でおのずと出さなければいけませんので、その財源をもらうのが望ましいですね。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、そうですね。

(藤井委員)

また、県との連携ということで、こどものくにと連携するというのが1つと、東部には少年自然の家がありませんよね。東部にはもともとあったのですが、美術館をつくる関係で壊して、新しく作り直すというような経緯があったような気がしますが、それがどうにかうまくいかないかなと思っているところです。

例えば、米子市が米子市の体育館と産業体育館を一緒にして大きな建物つくる等、市と県とが一緒になって施設をつくるという話があるので、なかなか難しい話になってくるとは思いますが、そのような形も可能なのかなと思います。

(尾室教育長)

県のこどものくの方にの雰囲気はどうか。藤井委員が言われたような、県市共同の研修施設をつくる等の話は出ていますか。

(生涯学習・スポーツ課長)

今のところでできていません。

(藤井委員)

私の記憶が正しければ、こどものくには昔宿泊もできたのではないかと思います。

(尾室教育長)

はい、ありました。

(藤井委員)

それが現在はなくなっていますので、一緒に開発しなければいけないのも事実です。

それから、地図の赤い線の道の向こう側の白いところは砂丘の一部ですが、もとは建物が立っていたところで、県有地だったと思いますので、一体的な開発というような話がうまく進められないのかなと思いました。

(生涯学習・スポーツ課長)

我々としまして、県のキャンプ場と市の柳茶屋キャンプ場をあせわて棲み分けができればと思います。距離は少し離れてはいますが、連携できればと思います。

(藤井委員)

キャンプ場も、こどものくにのキャンプ場が広くて使いやすいと思いますので、場合によっては柳茶屋のキャンプ場をやめてもいいのかなという気がします。宿泊施設とキャンプ場とが連携して一緒に何かするなど、良いお話になったら、東部の子どもたちにとってとても良いような気がしております。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、ご意見をいただきありがとうございます。

民間の活用という話もありまして、無償譲渡ですとか、お貸しするとか、市が整備する、民間の方に整備していただいて一部補助金を出すなど、様々なパターンがあると思います。庁内で検討させていただいて、また次回サイクリングターミナルの方向性について説明・協議をさせていただきたいと思います。

(藤井委員)

わかりました。なかなか改築をしてもいいものがないような気がしております。

(生涯学習・スポーツ課長)

かなり老朽化が進んでおりますので、管理棟くらいでしたらよいと思いますが、例えば、宿泊をするとなれば全面リニューアルのようになってくると思います。

(山脇委員)

大江の郷の「オオエバレーステイ」は大江小学校を全面リニューアルしてお洒落になっていますよね。若者も多く来ているそうです。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい。そのような提案がいただけたらありがたいところです。

(藤井委員)

大江小学校はもともと大きいですね。今回はそこまで大きくないように思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい、大江小学校に比べて規模は小さいです。

(山脇委員)

目的を定めないと、何か施設をつくるようになってもうまくいかないと思います。私としましては、値段が少し上がっても、利用しやすい施設の方が子どもたちや保護者の方も安心して利用できるのではないかと思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

イメージとしましては、子どもたちだけでなく一般の方、県外の方など様々な方に利用していただき、西側一体の活性化につなげていきたいと思っております。

(山脇委員)

今ワーケーションなども注目されていますので考えていければと思います。

(尾室教育長)

今のご意見をまた、持ち寄って話をする時に考えていただきたいと思います。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい。公募募集要項を作成していきますので、様々な提案が受けられるような形にしたいと思います。

(藤井委員)

教育委員会がサイクリングターミナルを所管していて、その意見を出して市全体で全体の方針をつくられるのですか。

(生涯学習・スポーツ課長)

はい。ただし、ずっと教育委員会が所管していますと、一体的な整備というのが難しいため、ある時点になりましたら所管換えをして、観光の施設ということで活用していく必要があると考えております。

【質疑・意見交換】

(1) 鳥取市小・中・義務教育学校における防災教育の状況について

学校教育課長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(藤井委員)

非常にわかりやすく資料をつくっていただいております。特別活動などの際に今説明いただいたようなことをしておられるということですね。

(学校教育課長)

はい。学校行事として行っております。

(藤井委員)

気持ちとしては、美保南や青谷の専門家派遣事業の部分について、もう少しバリエーションを増やしていければと思います。例えば、全体的な防災教育ができるような人材を派遣できるようなメニューを作るというようなことを考えたいと思っています。また、学校ごとに危険な個所があると思いますので、そういったことも勉強してから派遣するようなことも考えたいなと思っています。うちにも何人か職員がいる中で、話をしたところ、学校で子どもたちに話をするためには、まず、学校へ出かけて行って学校の状況を見ながら、どのような流れにするか打ち合わせを行う必要があるということでした。実際に学校に対してどのようなことが話せるか、学年によっても違うでしょうし、多少時間がかかっても話をするだけではなくて、前後の資料作りからしっかり行わなければいけないと思っています。そういったことを考えていきたいと思っているので、まだできていない段階ではございますが、できた際にはご活用いただきたいと思います。

市町村の学校だから市町村がすればよいという方もいらっしゃるかもしれませんが、鳥取県は小さく、専門家の方も各市町村にいらっしゃるわけではないと思いますので、県が率先してそういったことは行っていかなければいけないのではないかと

と思います。

それから、実践例や避難訓練が、中学校は意外と少ないというのを感じました。

(学校教育課長)

はい。HP から実践例を探してみましたが、中学校のものはなかなか情報が見つかりませんでした。

(岸本副教育長)

中学校は高校と同じように授業が主体で、教員自体にそれぞれ専門分野がありますので、小学校に比べ、教科の中で学んでいくということもあると思います。

また、HP には上がっていないところもあるかと思いますが、東日本大震災の後からは特に、様々な工夫をしながら避難訓練等を行っております。

(藤井委員)

特別活動のような時間は中学校にもあるのですよね。

(岸本副教育長)

はい、ございます。

(藤井委員)

仮に、このような専門家の派遣事業があって、その内容が中学生にわかりやすい内容だということになれば、このような取り組みを受け入れてもらうことは可能なのでしょうか。先ほどもあったように、防災において、中学生になると、地域のことも目配りするよということをして学校で意識しておられるのであれば、中学生の子どもたちが自分の近所で、自分だけでは避難できないお年寄りの方に「早く避難しよう」と声掛けをするというような役割があるということも学んでもらうのもいいのかなと思っております。

(岸本副教育長)

基本的な学校の防災教育の中学校段階の大きな目的が、藤井委員が今おっしゃられたことです。地域の中で自分たちのできることをということで、避難の際に率先して声をかけて避難するというようなことについては防災教育、避難訓練の中で教えています。また、県の方に学校防災アドバイザーがおりまして、授業をする前から入っていただいて、授業のやり方等を指導いただいています。あわせて、学校を回ってどこが危険な箇所かということも皆で確認していくということもされております。1 番問題となるのは、学校によって意識の差や取り組みの差があるということです。それをどのように高めていくかということが課題になると思います。

(藤井委員)

はい。もう少しわかりやすくメニュー化して、持ち込み型のものにするとよいかと思います。

(岸本副教育長)

そういったものがあると、非常にありがたいと思います。

(畑委員)

すぐにできることかはわかりませんが、中学校では学校の中でスリッパを履いて生活していますが、避難するには非常に不具合のある履物だだと思います。計画訪問で子どもたちが生活している姿を見るたびにそのようなことを感じます。速やかに安全に避難することを想定したときに、体育館シューズのような靴を履いて過ごしてほしいなと思います。いくら教育環境を整えても、いざ行動しなければいけないことが迫った時に、本人が行動しづらいような生活スタイルになっていますので、まずそこから直していく機会があればよいなと思います。そういった声が子ども側からあがってきたり、あるいは学校の中で安全計画を見直す際にそのような声がこれまであがってこなかったのかなということは思っています。

(岸本副教育長)

学校の中で上履き、スリッパという文化が強く根付いているという背景があります。学校では様々な場面で上履きの脱ぎ履きがあるということや、靴にしてしまうとかかとを踏んで歩く生徒への注意が必要になってくるなどの理由もあって、スリッパが主流になっているのだと思います。様々な意見がある中で、履物を変えるところまではどの学校も至っていない現状があります。

(畑委員)

関西で長く過ごした身としては、阪神淡路大震災もそうですが、自然災害や、人災などが起きた際に、とにかく子どもたちがその場から速やかに逃げるためにはどうしたらよいかということしか考えられないという思いです。今一度、子どもたちの行動のとりやすさというところにフォーカスを置いて考えてみる必要があるのではないのでしょうか。自然災害の話から少しそれてしまいましたが、人災、不審者から身を守ることも防災だと思います。

特に関西に比べ鳥取は、割と自由に、学校の職員に会うことなく校内に入っていくことができますので、人災についても気を付ける必要があると思います。

(尾室教育長)

ありがとうございます。今お話いただいた内容については、学校の様子や他県の様子なども少し研究してみる必要があると思います。

(前田委員)

1つ疑問に思っていたのが、津波についてです。学校現場にいた際に、日本海は地形上津波が起こっても東北のような大きな津波が起こらないため、あまり津波を想定したような訓練は必要ないのではないかとか、かえって学校が津波について強調すると、地域の方々が不安になるのではないかといわれることがありました。どのような捉え方が一般的なのでしょう。

(教育総務課長)

鳥取県の方で、鳥取に起きる地震や津波の想定をしたものがございます。いくつか断層がありますが、そこで地震が起きた際の影響は、東北のようなレベルではありません、賀露や気高、皆生や境港のあたりで津波が起こっても、内陸の方まで津

波が上がってくるというような想定はございません。鳥取市内ですと湖山池のあたりまではあがってきますが、学校の2階、3階まで避難しなければならないような地震は想定されておられません。それが鳥取県の見解です。

(前田委員)

ありがとうございます。子どもたちはいつまでも鳥取にいる子ばかりではないので、大きな地震が起きたときに対応できるような教育は、どこに住んでいても必要だろうと思いますが、地域を巻き込んで行おうとした際には、学校だけの問題ではなくなってくるので難しいなと感じました。

(教育総務課長)

地区の自主防災会の方々とハザードマップを見て、地震で津波が到達しないということをご承知のところもあると思いますので、それを自分たちの地区でやるのかということは地域ごとで異なっていると思います。

(前田委員)

そういったことに乗じて、学校と地域でもう一度考えてみようという機会になればいいのかなと思います。

【その他の意見】

(前田委員)

先日の大雨で学校が休校になった際、児童クラブの閉鎖について新聞に載っていました。実際には難しいことだと思いますが、児童クラブ自体に、こういった場合には鳥取市としてはこのように対応するというような方針がはっきりしている方が、保護者も迷わずに動くことができるのではないかと思います。

(岸本副教育長)

基本的には、児童クラブは学校が警報等で休みになる場合は預からないということをお願いしていますが、どうしても預かってほしいというご家庭もありますので、絶対にあずからないということはしていないと思います。そのあたりの判断は児童クラブに行っていていますが、今回の場合は避難指示がずっと出ていましたので、避難指示を出している中で学校に集めるということは難しい状況でした。このような場合に、児童クラブも、何か起きた際に責任を負えませんが、避難すべき時により安全な場所にいることが再優先だという判断しての対応だったと思います。その時の状況を見て判断しながらの対応になってくると思います。

中学生にも地域に置ける自分たちの役割を学んでほしい

【先回定例会の議事録】

【その他】

(1) 次期委員会の開催について

[8月] 令和3年8月30日(月) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

[9月] 令和3年9月28日(火) 13:30～ 鳥取市役所本庁舎6階 第4会議室

教育長 以上で7月定例教育委員会を終了します。

閉会 14時40分